

七卷五式



特別
13
3638



この書再板ありや、大型を二冊付左の如くあり

安永八年己亥孟春新刻

文政十三年庚寅陽旦再梓

江戸書林

西村源六板

門へ13
3638
巻

特

昭和二十二年四月八日
宮川曼魚氏寄贈

序

吾七拳闘式と讀く七しび

トク田於戲拳ある哉舎や此


拳下しび新々諸社美は皆もく

べし九十乃大とけりげは里心

も狐子魁さぬ身ハ一拳乃勝負

と決して心ハ竹林の中名よ入る

皇學博士印

月つきは日ひ結むす庚かろ申まを結むす四よ季きおろくく玉たま珍めづび
由よし人ひと体たこれ舎や々々やや嬰えい帳ちやう紅こう玉たまの中
ろろろここけけけんけんけけををむむるるづづくく四よ角かく
四よ面めんのの字じ合あひひもも一いち巻まきててももややななららば
於お戲ぎ巻まきちちもも式しき舎や々々安やすくくもも永ながびびももりりののお
ももろろくくななららんんのの護ご火か乃ののの新にま修しゆ館のを
ももれれどど免めん酒しゆ中ちゆう花はな老らう人じん巻まき 

叙

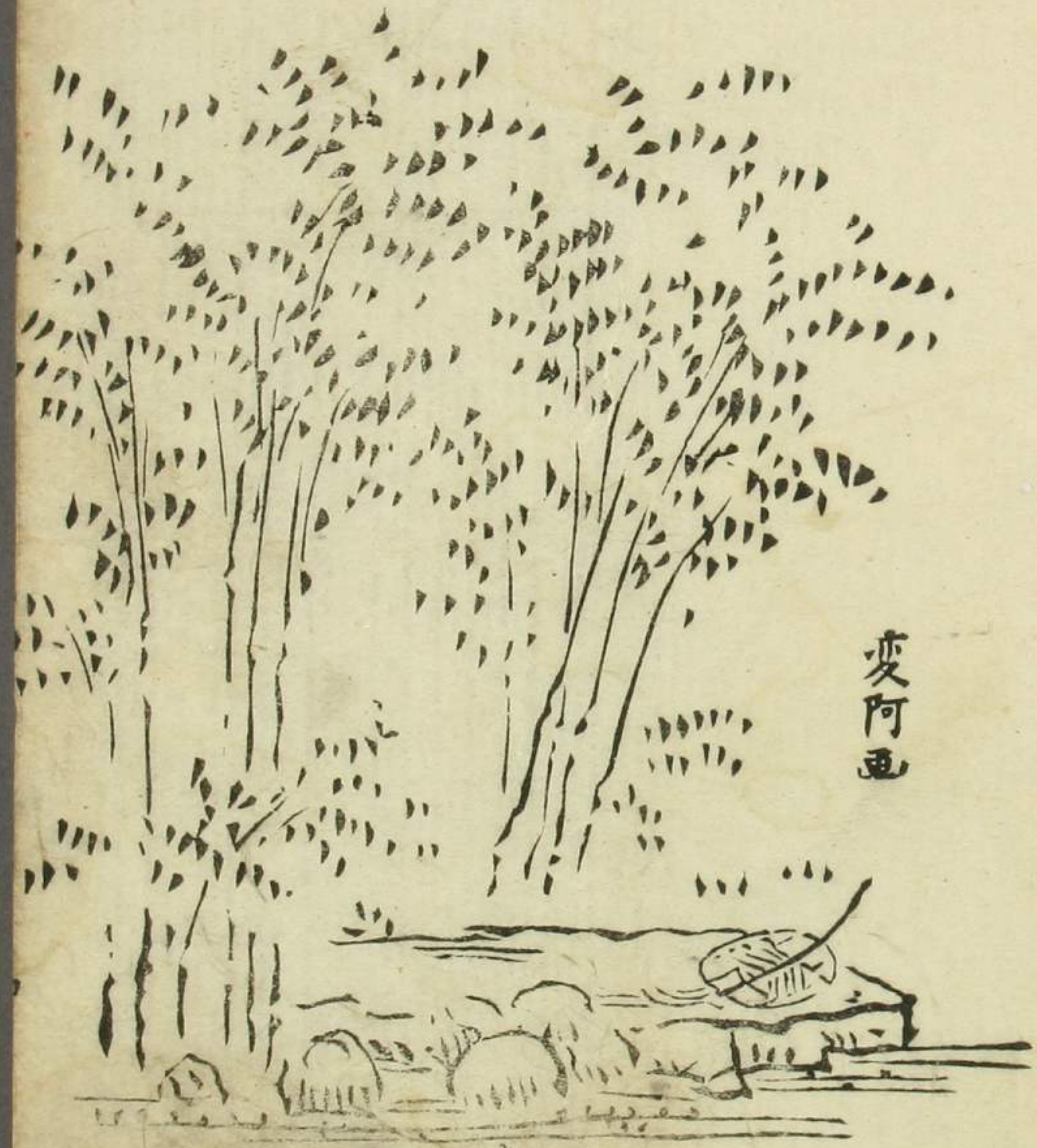
ほほまま口くちろろくく人ひとををぶぶてていいぢぢむむ。可か外がい一いち杯はい
ののむむとと石いし詠えいののああががもも隠かく聲こゑのの一いちつつとと
ううあありりおおーー花はなああるる茶ちやののああじじもものの茶ちやもも
ううああららいいののううをを述のすす。木きののああららハハ一いち斗と符ふ
るる符ふ何なに中ちゆうるる斗と存ぞんハハるる事ことととままるる事こと
十じゆ五ごをを免めん理りままささるる。ととくくももたたままりりててああ

のまれの酒ぐざりまきながらまき込め
はるあしついで調子ささるえんあま
竹の梅さうの七人のつぼりくきをつぎ
その名をこゝろをかちらうしちらう
さいさー出ーしらうハセけんは籍
はもーちる。政ハまらり政成海
あても。ゆきしらうくの諸白との

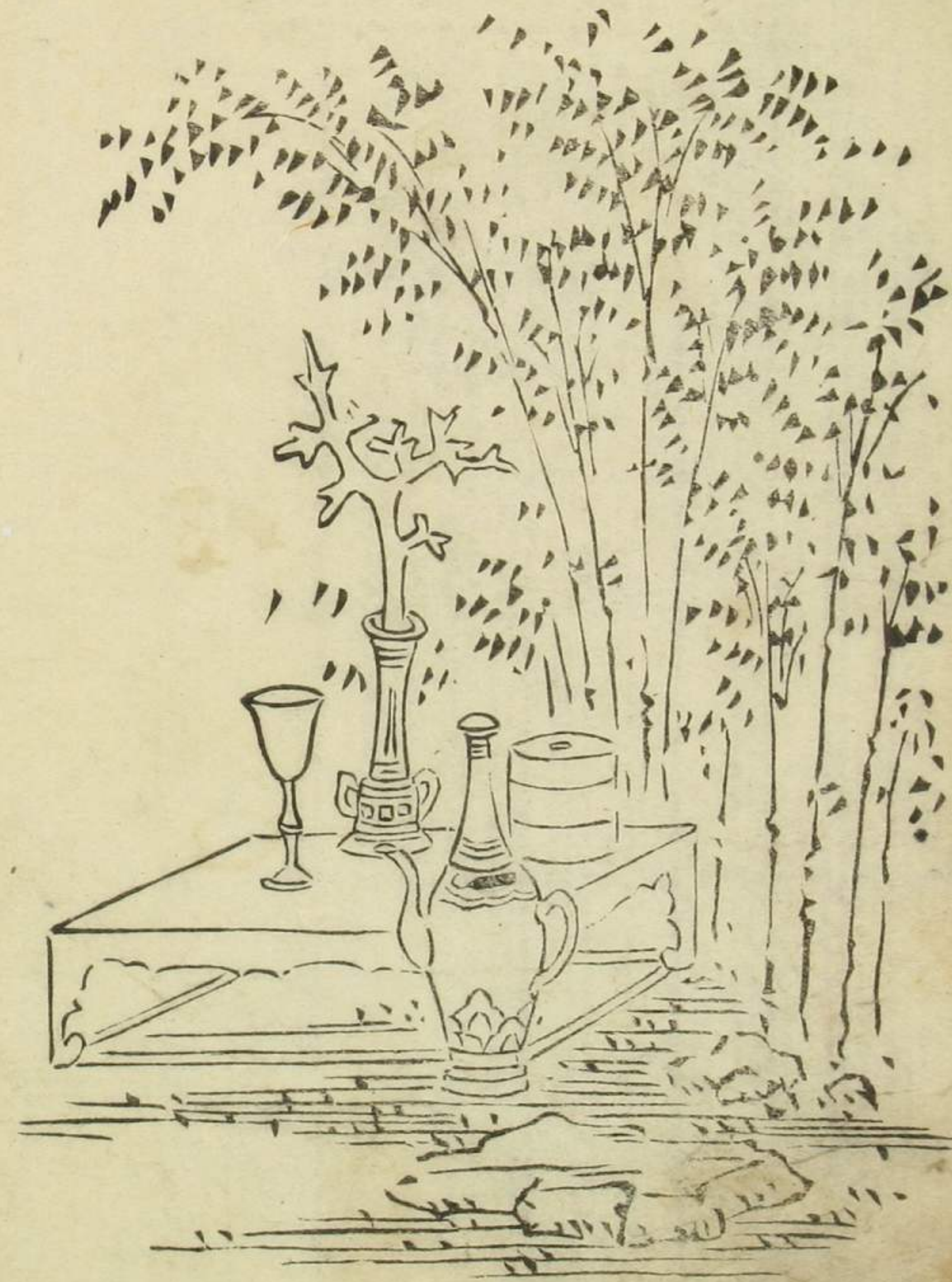
つらうもあうくわうしちるくま
こゝろを花のま。ち中ま人の佳句
とちるま。竹林夢のうらうら
あては題は

安永己亥孟春 一筆 自列亭





瘦阿画



兩人對酌（兩）

手開一杯一

杯又一杯（既開）

七拳圖式

七拳傳



四方の赤良がつよよあささ下の酒伴
六七人一日ちりりの底の深川は棹さうて
これさへあれをみるもとりも揺一つをたのむ
よて漕舟船ハを玩世ぶひるりくさるわどこ
つのならむ産の飛もて突つふ富が岡よあうりく

一てよ^すを^す持^もも^こく^はま^のの^ちを^くあ^づる^盃ハ^救
も^あら^ぬの^酒を^ぐり^よハ^あら^ずで^吸お^挽の^あら^ず
こ^よりの^こら^ずせ^ば名^ひら^けや^まい^らら^ずり
らん^様よ^こら^りと^杯め^ある^のの^美を^こら^ず
も^せど^とう^くと^まづ^らう^じう^ちを^ぞう^く後^と
ま^ぢな^のの^奥が^まよ^り斗^半の^百と^のを^こら^ず
酒^らま^さ氣^のこ^らず^のあ^らず^とれ^と目^あら^ず

こ^らず^のひ^らり^ど竹^のを^中の^おく^らく^コツ^プの
酒^の穀^をま^より^を浦^{あり}人^こら^ずい^く
こ^らず^のあ^らず^のあ^らず^のあ^らず^のあ^らず^の
げ^{ある}ハ^勝を^こら^ずい^くと^まづ^らう^じう^ちを^ぞう^く後^と
その^人を^こら^ずい^くと^まづ^らう^じう^ちを^ぞう^く後^と
こ^らず^の酒^を欲^をと^らり^して^のこ^らず^の人^をま^より
と^たら^ずい^くと^まづ^らう^じう^ちを^ぞう^く後^と
六

之^{きせ}弦の^{たに}糸は^{ひぢ}肘を^さして^ささ^やと^辨を^やと^さ
ち^らう^やう^てま^くる^は大^指と^小指^をと^りて^さり
し^カア^キミ^カガ^カラ^カヤ^カラ^カマ^カー^キク^ツて^さと
い^ふの^をさ^く何^もも^す舟^の浦^延の^さら^づり
ま^ひと^く移^りて^まま^へと^くあ^まさ^さび
る^こま^きて^くづ^く結^るは^大指^ハ又^小指^ハ母^手
へ^ーや^らし^くさ^らり^とさ^らり^とあ^らり^とあ^らり^とま^まの^まま^ま

ふ^やあ^らん^山げ^はあ^らく^と吹^たえ^く
て^うち^のう^らま^な松^あら^びや^赤良^美と^く
の^龍泉^太阿^の劍^と松^とと^と酒^のさ^ら
あ^ら七^拳を^松と^とを^なり^ら處^如が^指と^と
わ^らえ^風情^はあ^らひ^の七^賢と^指の^指
と^とへ^く酒^のむ^とを^けは^もと^をが^式と^つり
く^酒伴^はあ^らび^のひ^りの^ひり^のひ^りの^ひり^の

さ^のひ^の

別當^{べいとう}しけいめい^{めい}りく^{りく}るればい^いく^くう^うの^のち^ち
よ^よら^らつ^つけ^けたりてい^いね^ねが^が侍^じと^となり^りたり^りや

朱樂^{しゆらく}館^{くわん}公^{こう}書^{しょ}

七^{しち}拳^{けん}の^の名^な

げん^{げん}せき^{せき} けい^{けい}くわ^{くわ} さん^{さん}とう^{とう} ちやう^{ちやう}きやう^{きやう}
まう^{まう}せき^{せき} こま^{こま}ぎやう^{ぎやう} げん^{げん}えん^{えん}

七^{しち}拳^{けん}圖^ず

た^たま^まに^にえん^{えん}じ^じり^り七^{しち}賢^{けん}の^の名^なを^を呼^よぶ^ぶ拳^{けん}を^をう^うり^り
べ^べし^し拳^{けん}の^の数^{すう}ハ^ハ句^くの^の排^{はい}名^なと^とん^んく^く押^おの^のづ^づく^く
ある^{ある}べ^べし^し必^{かならず}し^しも^も圖^ずに^にあ^ある^るふ^ふの^の形^{かたち}は^は
う^うら^らる^るふ^ふの^の形^{かたち}は^は務^む員^{いん}ハ^ハつ^つの^の拳^{けん}は^は同^{どう}じ^じ
し^しハ^ハ九^く十^{じゅう}の^のあ^あき^きの^のこ^ころ^ろなり^{なり}
但^た拳^{けん}を^を没^{ぼつ}有^{ゆう}と^とい^いふ^ふなり^{なり}
ハ

嵇康

秋八月

きふ水

あり

玄柳

凌也



阮籍

蒼々々々

下戸一と白眼

初切つ不

逸口



山濤えとう

友もが那

うちの月さ

雲ひとえ

山阿えあ



向秀きやうしゆ

笛の音よ

むうー

忍ぶの

新場式

澄湯ていゆ



劉伶リウレイ

いふやけ

酒を埋ま

醉死ん

江齋カサ



王戎ワウジウ

桃李タリをばか

李くれ

呂馬リウマ



阮咸

唐錦

秋やんろ

好づーさし

茶磨



七拳式

四方赤良述

唐山^{もろこし}みてい酒令^{さかづき}とらひ吾朝^{わが}みてい拳酒^{けんしゆ}と云
 天竺^{てんぢく}よりい酒のむらの五百生^{ごひゃくせい}がらふのなき
 ものよせられしあはれ拳^{けん}の沙汰^{さた}及^{およ}びは柳^{やなぎ}
 この七拳^{しちけん}ハいさうのうし晋^{しん}の七賢^{しちけん}の直傳^{ちきでん}ありて
 竹の林^{たけのりん}のありたりせ聊^{いささ}おま遠^{とほ}あさりのあり
 今幸^{さいわい}よ一巻^{いっまき}を得^えたりはくく閑^{かん}と其傳^{そのでん}

の絶々んと伊丹諸白濁のりけどりの勇武
とあつぱりて四方のあつぱりて弘むといふ
夫賢ハ拳あり十目のらけく亦十手乃
指と新とれ拳あり哉富を酒屋を
潤し徳利ハ牙と潤を心度く體よろく
と足りとのさびまゝぬしと

上戸ハよけせ

第一 酒伴

才一ハ友とるるべし一ありぬとよきとこち
しとゆとるりてあしきとあつちんハ分さる
るるべし一か下戸よりとも酒好と稱
をる酒ハこれとゆをさし上戸よりとも
糟らゝひの徒ハこれと稱さむ

第二 酒品

酒ハ伊丹池田角田川もす—四方のあふ勿論
のさけ山の燗カマがま—火つり濁ドロ碇イカリの類しるしハ

第三酒肴サウキウ

肴サウキウハ肴サウキウと最上サイカウとハ 肴サウキウハ 孟宗モウソウ竹タケの志シめん
んんののも佳キとハされども不時トキトキハと先サキがさ
—とハさしとるくハ竹タケ掃ハキとハキくこれハ易ヨクハ
至至餘余の料リョウ和ワハんん合カ次ジ也也

第四酒器サウキ

サウキのつたの

燗カマハ仲ナカつぎの形カタハ類ルイ—さづきハおしとん
コツプコツプるべ— 碇イカリ蓋カサハさるが細ホソ工コウハ竹タケの模モ様ヤウ

第五酒筵サウゼン

掛幅ケバフハ七賢シチケンの圖ヅハ竹タケの画エるべ— 筵ゼンハ
竹タケむらとをを式シキとハ琴コトのよよ畧リョク式シキありか
竹タケ材サイ多く多自ミ身ミののまへささるるああままじじどもども碎クズ後ゴハ

豹脚の患ありとてつゝよ席上の遊びとハ
あはれり

第六 好物

けね酒好とてくハ香煎のどろ〜故よ変〜そ
好物とて是席上よあり〜手ものとり席上
よあり〜手お

よ〜鳴る云弦

料紙取

第七 禁物

これ席上よき〜あものあり

謡

智学

空料砂

界下味唱

年ハけ〜る變童

兄さんのある歌妓

味唱場のオモ〜

唐本表紙のぢ

木柵

但子ま〜ハ制外の〜

け外見え坊。垢商。伎。いごご。いやくら〜

まどくまの世にあらうけしむひのゆく
舞マユ余ヨのつるきとゆるユル音曲ネキョクの女メの戯腔ケイカウ
男ヲ河東カトウのうまがウマガ

七拳圖式終

拙ツツ心シン奏ソウのハののしあまのハは
けりケリの奏ソウとけんケンと色イロ
界カイの酒サケハとト影カゲハハ乱ラン
及ツキむと卵タマゴハハ玉タマ子コありたまタマこそ
づくのツクのノのノのノのノのノのノ
野ノのノのノのノのノのノのノのノ
胡コ胡コ胡コ胡コ胡コ胡コ胡コ胡コ

世がかりのりくを考ふる事二八と新入
乃事法もて此の河海舗の招牌
宛ふくし一子十八も志をば
吟嘆も固字もくくハ譯目あり
今志手れ仲間の借語をまゝ大過
とらふ事あるべしのいざさば海津通達
が今の世もあなをとおししく林多紙

よ春女お新書より中々むけのり
そりておせりくし書もししよあな
とや分別のりあな時めシヤビ
せしとらふしあなせしあな
おのりお新書より中々むけのり
つばあなより上りよあな
河海舗より中々むけのり

よふもよふもつらてふてこれ何やう下戸と
いもむいありおとちいなりいしとむく
とあつりの山をが遠征馬鹿の宿醉
乃解醒湯りる目出さすい君が代母
あれあつる下戸もは公よ下戸はさ
ありお人ともささるるいられ酒の
い断りよ下代とこあつるはけり乃村

此七巻の末あづくのやどもほきぎ
くやどもかきぬ酒の更卓子亭子の
角ううまきまきあらくとちあら
とこちらけけるを誰と赤良が門人

標貫熟林識



安永八年己亥孟春新刻

江戸本町三丁目

西村源六板



卜字

15453

